

皆さんおはようございます。

本日より、平戸市長として市政を担わせていただくことになりました、松尾有嗣です。どうぞよろしくお願ひいたします。

本日お集まりの議員各位におかれましては、ご臨席を賜り、誠にありがとうございます。また、改めまして、この度のご当選をお祝い申し上げます。今後ともご指導ご助言くださいますようよろしくお願ひ申し上げます。

私は、まず何より、この歴史と自然、そして人の温かさに包まれたふるさと「平戸」で、皆さんと共にまちの未来をつくる仕事ができることに、心から感謝を申し上げます。

私はこれまで国会議員秘書として、国政の最前線に立ち、地方の声を政策に反映させる仕事をしてきました。国の制度をつくり、予算を動かし、地方の課題に寄り添いながら、「現場の声が届く政治」を模索し続けた年月でした。

しかしその間、心の中にいつもあったのは、ふるさと・平戸の姿です。海に囲まれた島々、自然の恵み、そして人の優しさ。かつて国際交流の玄関口として栄えたこのまちが、いま人口減少や産業の停滞といった課題に直面している現実を、ずっと胸の奥で見つめてきました。

私は思いました。「このままふるさとが静かに衰えていくのを見てはいられない。いまこそ、自分の持つすべてを故郷に捧げるときだ」と。その思いで、28年の国政の経験と人脈をすべて持ち帰り、市長としてこの地に立たせていただきました。

「未来をひらく！きずなを結ぶ！平戸！！」

私は選挙の際、このキャッチフレーズを掲げました。この言葉には、二つの強い思いを込めています。一つは「挑戦」、もう一つは「つながり」です。私たちは、変化を恐れず挑戦しなければなりません。そして、市民と市職員、地域と行政、産業と教育、そのすべてがつながり、力を合わせていくことでこそ、平戸の未来は切り開かれます。

私は、市長として“現場主義”を貫きます。机上の空論ではなく、現場の

声に耳を傾け、職員とともに汗を流しながら政策をつくっていきます。市役所は「市民にとって最も信頼できるパートナー」であるために、皆さんと共に、挑戦と信頼の市政を築いていきたいと思っています。

行政の現場では、法律や制度、財政の制約など、「できない理由」が数多く存在します。しかし私は、28年、そうした壁を前にも「どうすればできるか」を考え、形にしてきました。いま平戸に必要なのは、「無理だ」とあきらめることではなく、「どうすれば実現できるか」を探し続ける組織の力です。一人の発想、一人の声が、まちの未来を動かします。

「これは難しい」と思ったときこそ、職員の皆さんの知恵と情熱が試される時です。前例がないなら、前例をつくればいい。失敗を恐れず、挑戦を重ねるチームでありたいと思っています。そして挑戦する職員を、私は全力でサポートします。挑戦を恐れず動いた人が、次の一步を踏み出せる環境をつくる。それが、私の責任です。

私は、市役所の主役は市長ではなく、「職員の皆さん」だと思っています。皆さんのが市民一人ひとりの声を受け止め、支え、時に励ましながら、まちの暮らしをこれまで守ってきました。

私は皆さんを「部下」ではなく「仲間」として見てています。市長室は常に開かれています。どうか遠慮なく、現場の課題や提案を今後届けてください。現場で感じた違和感、改善のアイデアなど、それこそが市政の原動力になるのです。

これから時代、行政には“前向きな想像力”が求められます。「言われたことをこなす行政」から、「自ら考え、動く行政」へ。私はその先頭に立ち、皆さんとともに風通しの良い職場、誇りを持てる組織をつくっていきます。

市民に信頼される市役所であるためには、まず職員が仕事に誇りとやりがいを感じていなければなりません。皆さんのが安心して働くよう、人事制度の見直し、働き方改革、キャリア支援などにも取り組んでいきます。

ここでいくつか私が掲げた政策について述べたいと思います。

平戸の原点は、「海・山・大地」です。農業も、漁業も、畜産も、林業も、

この土地の自然と人々の誇りが支えてきました。

私は、スマート農業の導入や特産品のブランド化、販路拡大などを進め、「稼げる一次産業」への転換を図ります。若者や女性が夢を持ってこの産業に関わり続けられる仕組みを、皆さんとともにつくりたいと考えています。そのためには、市役所が産業の伴走者であることが必要です。

現場の職員が一次産業の生産者と一緒に課題を考え、解決策を形にする、こうした行政こそ、これから的地方自治の姿だと思っています。

人口減少という現実を、悲観ではなく希望に変えていきましょう。「減る」からこそ「選ばれるまち」をつくるチャンスです。

空き家を活かした移住促進、子育て世代への支援、テレワークなどの環境整備。こうした取り組みの先にあるのは、「ここに住んでよかった」という一人ひとりの市民の笑顔です。その笑顔を増やすために、市民に寄り添う行政でありたい。「市民、そして人が主役のまちづくり」を皆さんとともに進めていきたいと思っています。

私は「正確に、誠実にスピード感をもって」を市政運営の基本と考えています。市民の信頼は、一朝一夕では得られません。しかし、誠実に向かい、言葉と行動で示せば、必ず信頼は積み重なっていきます。私は、タウンミーティングや若者会議を通じて、市民の声を直接聞き、市政に反映させていきます。そして、SNSなどを活用し、行政の動きを分かりやすく伝える「見える行政」を進めています。

職員の皆さんにも、市民の声に耳を傾け、市政の最前線に立つ一人としての誇りを持ってほしいと思います。

「飲水思源」、これは私の座右の銘で、水を飲むとき、その源を思うという意味です。いま私たちがここに立っているのは、先人たちの努力、市民の支えがあったからです。この平戸のまちは、先人たちが築いた知恵と情熱の結晶です。その恩に報いるためにも、私たちは今、次の世代のために働くなければなりません。

皆さんの仕事は、日々の小さな積み重ねの中に、大きな意味があります。一枚の申請書、一本の電話、一つの現場確認、そのすべてが、市民の生活と

平戸の未来を支えています。

どうか、自信と誇りをもって、胸を張ってこれからも職務にあたってください。

結びに、共に前へ、共に未来へ

平戸には、海の輝き、山の緑、そして人のぬくもりがあります。そして何より、「可能性」があります。

私たちは今、新しい平戸をつくるスタートラインに立っています。どうか今日という日を、その第一歩にしてください。

市長一人では何もできません。しかし、職員一人ひとりの知恵と力が合わされば、どんな壁も乗り越えられます。皆さん之力を、私は信じています。

「未来をひらく！きずなを結ぶ！平戸！！」

この言葉の通り、皆さんとともに“誇れる平戸、選ばれる平戸”を必ず実現してみせます。共に前へ、共に未来へ向かって取り組んでまいりましょう。

どうぞこれから、よろしくお願ひします。

本日はありがとうございました。